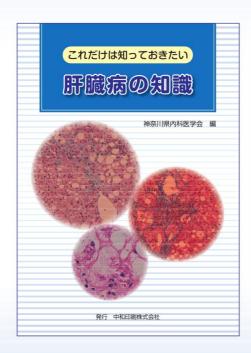
(資料1)

これだけは知っておきたい

野臓病の知識

専門医が丁寧に解説

肝臓病への新たな取り組みを



8月31日 発刊

定価 2,982 円+税

神奈川県内科医学会

編

(主要目次)

- 1. C型肝炎
- 2. B型肝炎
- 3. NAFLD/NASH
- 4. 原発性胆汁性胆管炎 (Primary biliary cholangitis: PBC) 旧称:原発性胆汁性肝硬変 (primary biliary cirrhosis) について
- 5. 自己免疫性肝炎
- 6. 薬物性肝障害
- 7. 肝不全
- 8. 肝細胞癌 (Hepatocellular carcinoma, HCC)

FAX 注文書

てれだけは知っておきたい 価格 部数 肝臓病の知識 定価 2,982 + 税 施設名 担当者名 住所 [〒] TEL FAX

※送料別途

中和印刷株式会社 行

FAX 03-3206-6828



(資料2)

K-2



神奈川県内科医学会 肝・消化器疾患対策委員会の あゆみ

岡 正直、永井一毅、宮本 京、多羅尾和郎

はじめに

今世紀に入り、我が国の多くのC型慢性肝炎・肝硬変患者 が発がんの時期に達し、年間約3万人が肝がんにより死亡す る状況であった。臨床の現場において慢性肝炎と肝硬変・肝 がんの知識を啓発し病診連携を進めるため当委員会は平成14 年(2002年)に「神奈川肝炎対策委員会」として発足した。当 初その活動の中核は、神奈川県立がんセンター顧問 多羅尾 和郎と神奈川県内科医学会会長 中山脩郎の主導で平成16年 (2004年)に始まった「肝がん撲滅を目指す病診連携の会」 (のちに「肝臓病を考える病診連携の会」と改名) のサポートを 行うことであった。平成21年 (2009年) に多羅尾が委員長就 任後に活動の幅が広がり、肝炎対策特別講演会の開催、市民 公開講座の共催、小冊子「これだけは知っておきたいC型・B 型肝炎の知識」の定期発行やウイルス肝炎患者掘り起こし事業 まで活動の幅が広がってきている。平成30年(2018年)よ り、肝疾患のみならず、消化器疾患全般に対策を広げるため、 委員会名称を「肝・消化器疾患対策委員会」と改めている。

平成14年(2002年)~平成20年(2008年) 委員長 岡 正直 平成21年(2009年)~平成22年(2010年) 委員長 多羅尾 和郎 平成23年(2011年)~平成25年(2013年) 委員長 宮本 京 平成26年 (2014年)~

委員長 岡 正直

現在までの、主たる活動の3つ「肝臓病を考える病診連携の 会」と「小冊子《これだけは知っておきたいC型肝炎・B型肝 炎の知識》の刊行」と「横浜内科学会肝疾患抽出事業」につい て章を分けて紹介したい。

肝臓病を考える病診連携の会

神奈川県の5つの地区 (横浜、川崎、横須賀、平塚、相模原) を順番に回りながら、原則年2回(初夏と秋)開催している。

平成16年(2004年)~平成23年(2011年) 代表世話人 中山脩郎、多羅尾和郎

第1回「肝がん撲滅を目指す病診連携の会」(図1) 平成16年(2004年)6月26日(土)新横浜グレイスホテル 特別講演「計から技滅を目指した慢性肝炎・肝硬変の最新の治療 インターフェロン無効例を中心に」神奈川県立がんセンター所長 多羅尾和郎

●第2回 平成16年(2004年)11月20日(土)ホテル ザ・エルシー 特別講演「遺伝子情報に基づく肝細胞癌へのアプローチ 聖マリアンナ医科大学教授 伊東文生

●第3回 平成17年(2005年)6月18日(土)横須賀プリンスホテル 特別購演「肝癌の現状と最新の集学的医療」 大船中央病院消化器肝臓病センター 高塚健太郎

●第4回 平成17年(2005年)11月19日(土)平塚駅ビル「LUSCAホール」 特別講演「肝癌接滅の為の治療戦略」東海大学医学部消化器内科教授 峯 徹哉

第5回 平成18年(2006年)6月17日(土)相模原南メディカルセンター大会議室 特別講演17は里大学病院・東病院における肝癌治療と病診連携の状況」 北里大学医学部消化器内科講師 法公明隆 特別講演2「肝細胞癌に対する肝切除の治療成績」相模原協同病院消化器外科副院長 高野靖悟

第6回 平成19年(2007年)6月16日(土)崎陽軒本店 特別講演1「C型肝硬変の肝発がんにおける持続炎症の役割」 神奈川県立がんセンター元所長 多羅尾和郎 特別講演2「肝細胞癌に対する内科的治療と将来の展望」 横浜市立大学附属市民総合医療センター院長 田中克明

第7回 平成19年(2007年)12月1日(土)川崎市立多摩病院 特別誘演1「肝癌に対する外科治療」聖マリアンナ医科大学消化器一般外科教授 大坪毅人 特別試演2「肝癌診療の現状」川崎市立多摩病院副院長 鈴木通博

第8回 平成20年(2008年)6月28日(土)セントラルホテル(横須賀) パネルディスカッション「病診連携による肝炎・肝がん治療の実態」 横須賀共済病院 池田隆明、小磯診療所 磯崎哲男、大船中央病院 高塚健太郎 済生会横浜市東部病院 山室 渡

●第9回 平成20年(2008年)10月25日(土)平塚プレジール 特別講演「肝がんはどのように育つのか。またその接滅のためにはどのような工夫があるのか」 東海大学医学部消化器内科教授 豪 徹哉

請演1「相模原市の診療所における慢性肝疾患治療の現状と肝細胞癌に対する病診連携ガイドラインの提案」 あさば内科・消化器科クリニック院長 浅葉宣之 あさばの科・湯化器科クリニック院長 浅葉宣之 請漢21仟高校票のための整形で下付着的内距書の指摘された症例」北里大学医学部放射線科学 松永敬二 講演3「若年性肝細胞癌症例」北里大学外科調節 古田一徳 講演47仟日3抗原消失後に肝細胞癌が発症した日型肝梗変の1例」 国立病務健植科模原病院が必需科医長 中利陽子 関連55℃型肝炎ウイルス患者の治療、相梗原協同病院病院長 高野貧価

●第10回 平成21年(2009年)6月6日(土)相模原南メディカルセンタ・

第11回「肝臓病を考える病診連携の会」(会の名称変更)(図2) 平成21年(2009年)11月28日(土)TKPコンカード 特別講演「肝硬変・肝癌に進行する脂肪肝:NASH」 東京女子医科大学消化器内科教授 橋本悦子

●第12回 平成22年(2010年)6月12日(土)ホテル精養軒 特別講演「肝癌診断および治療法の現状」川崎市立多摩病院副院長 鈴木通博

●第13回 平成22年(2010年)11月27日(土)セントラルホテル(横須賀) 特別講演「B型慢性肝炎 どのような症例をどのように治療すべきか」 武蔵野赤十字病院消化器科部長 黒崎雅之

●第14回 平成23年(2011年)5月21日(土)平塚プレジール 特別講演「C型慢性肝炎治療のup to date」東海大学医学部消化器内科学教授 峯 徹哉

●第15回 平成23年(2011年)11月26日(土)相模原市南メディカルセンタ 特別講演「肝細胞がん治療 局所治療から分子標的薬治療まで」北里大学医学部消化器内科学 中澤貴秀

平成24年(2012年)~ 代表世話人 宮本 京、岡 正直

●第16回 平成24年(2012年)6月16日(土)TKPガーデンシティ横浜 特別講演「肝臓病のブライマリケアと病診連携 肝機能検査を中心に 済生会神奈川県病院消化器内科 馴院長 山室 渡

●第17回 平成24年(2012年)12月8日(土)ホテルKSP(川崎市) 特別講演「B型肝炎 一般医家が知っておきたい長近の話題」 東京大学大学院医学系研究科 生体防御感染症学講座准教授 四柳 宏

●第18回 平成25年(2013年)6月29日(土)セントラルホテル(横須賀) 特別議演「非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) のすべらない話」 京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学講師 角田圭雄

●第19回 平成25年(2013年)11月16日(土)平塚プレジール 特別講演「B型慢性肝炎・C型慢性肝炎に対する最新治療」東海大学医学部消化器内科学教授 峯 徹哉

第20回 平成26年(2014年)6月7日(土)相模原南メディカルセンター 特別講演「新しい肝臓病の治療薬に関して インターフェロンなしのC型肝炎治療も含めて」 北里大学東病院消化器内科 日高 央

第21回 平成26年(2014年)10月18日(土)新横浜プリンスホテル 特別講演「新しい時代を迎えたC型慢性肝炎治療」京都府立医科大学消化器内科学教授 伊藤義人

●第22回 平成27年(2015年)6月27日(土)川崎市中原休日救急診療所会議室 特別講演「C型肝炎治療の現状 IFN freeの時代の到来」川崎市立多摩病院院長 鈴木通博

第23回 平成27年(2015年)10月24日(土)セントラルホテル(横須賀)

特別講演「multi-DAA時代のC型肝炎治療・現況と新たな課題」 北海道大学大学院医学研究科 内科学調座消化器内科学分野教授 坂本直哉 ●第24回 平成28年(2016年)6月11日(土)平塚プレジール

特別講演「C型慢性肝炎の過去か6未来」 東海大学医学部内科学系消化器内科学准教授 肝疾患医療センター長 加川建弘

●第25回 平成28年(2016年)11月19日(土)相模原南メディカルセンター 特別講演「HCV根絶へのカウントダウン」 北里大学医学部消化器内科学助教 魚嶋晴紀

●第26回 平成29年(2017年)6月17日(土)TKPガーデンシティ横浜 特別購演「新時代を迎えたC型肝炎のDAA治療 新たな別 埼玉医科大学病院消化器内科・肝臓内科教授 持田 智 新たな感染者の掘り起こし」

●第27回 平成29年(2017年)11月11日(土)川崎市医師会館 特別講演「C型肝癌接滅のための現状と課題」 聖マリアンナ医科大学消化器・肝臓内科准教授 松本仲行 ●第28回 平成30年(2018年)6月16日(土)ヴェルク標準質(図3)

特別講演「肝発がんに関与する代謝性肝疾患としての脂肪肝 非アルコール性脂肪肝炎(NASH)を中心に」 横浜市立大学附属病院肝胆膵消化器病学教室 今城健人



小冊子の刊行

「これだけは知っておきたい C型肝炎・B型肝炎の知識」

急速に進歩する肝炎治療の新情報をすばやく、わかりやす く、より多くの治療者に周知するために、委員によって分担 執筆された小冊子である。実際の診療に役立つ内容とするた め、医学的な内容に加えて、保険請求上の注意点や肝炎治療 の医療費助成制度などの情報も載せるなど、特徴ある冊子と なっている。

1) 平成21年(2009年) 初版 17ページ (図4)

2) 平成23年(2011年) 改訂版 19ページ(図5)

3) 平成25年(2013年) 改訂版 35ページ(図6)

4) 平成27年 (2015年) 改訂版 48ページ (図7)



平成29年 (2017年) に神奈川県内科医 学会の創立50周年の節目を迎えるにあた り、記念事業の一環として、当委員会の委 員の分担執筆による、C型肝炎・B型肝炎の みならず肝疾患全般をカヴァーする内容の 書籍「これだけは知っておきたい肝臓病の知 識」の出版を企画した。(図8)

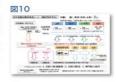


横浜内科学会肝疾患抽出事業(図9、10)

肝機能障害の原因は、ウイルス性肝炎や脂肪肝、アルコー ル性肝障害、非アルコール性脂肪肝炎、薬物性肝障害、自己 免疫性肝炎や原発性胆汁性胆管炎など様々であるが、自覚症 状が乏しいため適切な時期に治療を受ける機会を逃してしま い、肝硬変や肝がんに進展してしまう恐れがある。ましてや 日頃何らかの疾患で医療機関に通院している患者で、そのよ うな事態が生じれば、最悪の場合訴訟問題に発展するかもし れない。そこで、かかりつけ医で肝機能障害を認めた場合、 初期の段階でどのように対応するかが重要であるが、肝機能 異常の原因検索は複雑で、また保険診療上の制限もあり、診 断に難渋することが少なくない。

このような問題に対応すべく、肝 臓の非専門家にとっても扱いやすい、 できる限り簡便な「肝疾患抽出簡易検 査シート」を横浜内科学会で作成し、 非肝臓専門医あるいは職域において、 気づかれないまま放置されている肝疾 患患者を発見し治療に導くために「肝 疾患抽出プロジェクト」として横浜地 域を中心に活動を広げている。その活 動の詳細については、ポスター発表 K3「横浜内科学会肝疾患抽出事業につ いて」を是非ともご覧いただきたい。





神奈川県内科医学会 肝・消化器疾患対策委員

長 岡 正直

副委員長 峯 徹哉、永井一毅

員 宮本 京、多羅尾和郎、藤井隆人、小林明文、池田隆明、高山秀明、 中野史郎、斎藤 聡、日高 央、松本伸行

肝臓病を考える病診連携の会

問 多羅尾和郎

代表世話人 宮本 京、岡 正直

宮川政昭、田中克明、峯 徹哉、日高 央、鈴木通博、井上和明、 中馬 誠、小林明文、池田隆明、高山秀明、中野史郎

日本臨床内科医学会COI開示(発表者:岡 正直)

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

K-03

横浜内科学会 肝疾患抽出事業について

永井一毅1, 岡 正直1, 高橋 裕1, 今井鉄平2*, 斉藤 聡3

1 横浜内科学会 2 OHサポート株式会社 3 横浜市立大学附属病院 消化器内科肝胆膵消化器病学

背景

肝疾患抽出には、初期対応を担う「かかりつけ医」が適切に対応することが求められるが、非専門医にとっては、原因検索は複雑で、また保険診療上の適応制限もあり、診断に難渋することが少なくない。

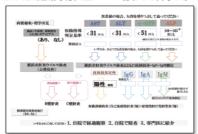
そこで、横浜内科学会では、簡便な肝疾患抽出シートを作成 し会員に配布、その返答をもって状況検討した。

対象と方法

対象:横浜内科医学会会員

方法:平成27年9月1日から24か月間、横浜内科学会員診療所において、新規に肝機能障害を認めた患者について、肝疾患抽出シート(Table 1)に示された手順に従い検索を依頼し、記入後にFAXにて回収した。なるべく肝臓専門医へ紹介することを推奨し、その進捗状況をまとめた。

Table 1 肝疾患抽出簡易検査シート(横浜内科学会)



抽出手順

今回使用したシートによる肝疾患抽出の手順は、肝障害患者 が受診した際には、まず病歴聴取を重視し、輸血・手術歴、 薬物濫用、刺青・ボディピアスがあれば、採血時には横浜市 肝炎ウイルス検査(公費)を勧め、陽性であれば、専門医へ紹 介することを推奨している。

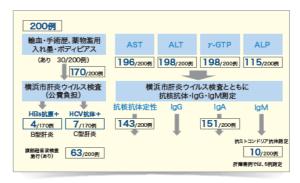
採血の際には、AST・ALT (<31IU/I)・r-GTP (<51 IU/I)・ALP (100-325 IU/I)値だけでなく、最低限、抗核抗体(ANA)・IgG-IgMを採血項目に含むことを推奨した。

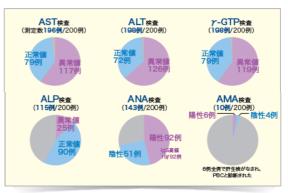
また、B型・C型肝炎ウイルスの感染が陰性で、AST・ALT (<31IU/I)・r-GTP (<51IU/I)・ALP ($100 \sim 325IU/I$) 値のいずれか一つでも高値であれば、矢印に従い次のステップに進み、抗核抗体(ANA)・IgG-IgM を確認する。同時に抗

ミトコンドリア抗体 (AMA) を追加測定 (保険診療病名は、原発性胆汁性胆管炎 (PBC) 疑い) すべきだが、保険診療上の制限もあり、AMA 測定はどの段階で行うか、IgM 高値の場合を除き指示は控えた。

腹部超音波検査が施行できない医療機関も多いため、診断難 渋例を含め、なるべく肝臓専門医へ紹介することを推奨した。

成績





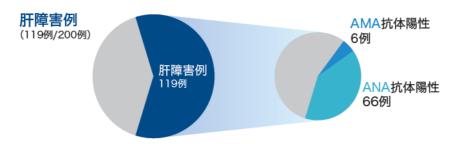


結 果

200例 (男性102例、女性98例、平均年齢62.34歳) が回収。横浜市肝炎検査が187例において施行され4例がHBV陽性、7例がHCV陽性であった。AST測定は196例 (異常値117例)、ALT測定は198例 (異常値126例)、 γ -GTP測定は198例 (異常値119例)、ALP測定は115例 (異常値25例)。ANA検査を行ったのは143例あり、ANA陽性は92例で \log Gが異常値19例であった。10例にてAMA測定が施行され6例が陽性であり、いずれも肝生検が施行された。また、上記原因不明の肝障害において5例でLSTがなされ、いずれもサプリメントによる薬物性肝障害が同定された。

結 語

AST・ALT・ γ -GTP・ALP測定に加え、僅かでも異常であれば、ANA・AMA測定を加えることで、AIH/PBCなどを早期に抽出可能であることが推察された。



考察

- **1** 「かかりつけ医」において肝機能障害が軽度な場合、肝障害の原因検索が十分になされていない症例があることが判明した。
- 2 保険適応範囲内で、本シートを診療に活用することによって、数例だがHCV・HBV・薬物性肝障害・早期PBCを抽出でき、活動は必要であると思われた。しかし、医師会活動には限界があり、本事業の推進には、さらなる検討が必要と思われた。

日本臨床内科医学会COI開示(発表者:永井一毅) 演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべきCOI関係にある企業などはありません。 第28回

肝臓病を考える病診連携の会 〜肝がん撲滅を目指して〜

代表世話人 岡 正直 宮本 京

日時/平成30年6月16日(土)16:00~18:00

場所/ヴェルク横須賀

〒238-0006 横須賀市日の出町1丁目5番地

TEL:046-822-0202 (横須賀中央駅 徒歩5分)

情報提供 16:00~16:10

「グーフィス錠5mg」 E Aファーマ株式会社

開会の挨拶 16:10~16:15

神奈川県内科医学会会長 宮川 政昭

−般演題 16:15~16:55

【座 長】横須賀市立うわまち病院 消化器内科 部長 池田 隆明先生

I 「消化器内科以外の科におけるHBs抗原陽性判明者に対する診療実態調査」 横須賀市立うわまち病院 消化器内科 部長 池田 隆明先生

小磯診療所 院長 磯崎 哲男先生

特別講演 16:55~17:55

【座 長】横須賀市立うわまち病院 消化器内科 部長 池田 降明先生

「肝発がんに関与する代謝性肝疾患としての脂肪肝 ~非アルコール性脂肪肝炎(NASH)を中心に~」

横浜市立大学附属病院 肝胆膵消化器病学教室

今城 健人先生

閉会の挨拶 17:55~18:00

肝・消化器疾患対策委員会 委員長

岡市直

- ・当日は参加費として1000円徴収させていただきます。又、軽食をご用意しております。
- ・当講演会は日本医師会生涯教育講座の取得を予定しております。
- ・先生ご自身の交通費を、弊社にて負担させていただく場合がございます。その際は弊社よりご施設のルールに則り、個別に相談させていただきますので宜しくお願い申し上げます。

共催:肝臓病を考える病診連携の会/神奈川県内科医学会/EAファーマ株式会社

(資料4)

いままで言えなかった本音の講演会 ~ 偽りのない日常診療の話 ~

Real intention seminar ~ heart-to-heart talk with common disease ~

関内新井ホール 原則 開催日ならびに時間 土曜15時~18時 会費 1000円

最適な診療の選択のためには、最適な治療法の検討が必要である。製薬業界の最近の動向をみる限り、社会に対する信頼や 責任に応えていくために、行動する視点が抜け落ちている。

医薬品のプロモーションに関する規制が強化された。かつては製薬企業の医師に対する行き過ぎた営業活動があったことは 事実であり、その適正化は必要である。しかし医薬品情報の提供を巡っては、製薬業界が定めた自主規制が過剰となり、そ のことが各製薬企業の萎縮を招き、必要な情報までが医師に届かなくなっているのが現状である。

そこには、「広告」と「情報」を混同しており、混同せずに分けて考えるべきであろう。広告という情報を自社の営業の中で主流におき、偏向した解釈を提示していたのは製薬会社自体である。製薬企業の行う講演会は、医療の情報提供の場ではなく、プロモーションの場としていたことで、そこで使用される講師のスライドをもプロモーションの資材と考え、業界ルールとして講演内容をはじめスライド等の事前介入を行ってきたのであろう。

神奈川県内科医学会と神奈川県保険医協会は、適正な薬剤情報と医療情報をわきまえて、講演会・研究会を構築すべきであると製薬業界に建設的な対応を求めていたが、医薬品のプロモーションに関する規制の概念から脱しきれない製薬業界は、新たな概念での講演会の設立に関しても明快な返答が得られないまま今日を迎えた。

今後も講演会の開催に当たって、製薬企業が講師の講演内容に関して事前介入を行い、その理由をコード・オブ・プラクティスに基づくプロモーションコードに抵触するなどということ主張するのであれば、その講演会は正しく広告講演会であるということを証明するようなものである。あくまで神奈川県内科医学会と神奈川県保険医協会はあくまで真の学術講演会を目指す。

ただし製薬企業との共催の可能性がある。その時には、製薬企業のプロモーションコードの適応は認めない。事前スライド・チェックも認めない。講演時に謝礼金は不要という医師や学者も存在する。今後すべての領域についての講演会においても、企業の宣伝工作にかかわらない本来の姿である自由闊達な講演を企画することが趣旨であることを理解していただきたい。しかしながら、薬剤処方や医療行為に関して、保険診療の範囲を逸脱した用い方を話すときは、演者はその責任所在を明確とするのは当然である。

神奈川県保険医協会と神奈川県内科医学会で成立した新しい講演会組織名義の通帳を作り、このような趣旨の講演会に賛同した製薬企業からの協賛金は振り込みを可能とする。

神奈川県内科医学会と神奈川県保険医協会は、合同講演会の名称、開催目的、趣旨等をメディファックス、日経メィデカル・メディカルトリビューン・m3・医事新報社等と情報を共有し、本合同組織の開催・運営費用を捻出するため、医学医療情報媒体企業に各講演会の要旨の配信を許可することに対して対価を求めることとする。

製薬企業は従来のコンプライアンス(Compliance)部門を改変して、エシックス&コンプライアンス(Ethics& Compliance)部門を設ける企業もある。コンプライアンスを直訳すると「法令遵守」という意味になることは周知のことである。もはやどの企業でも重要視されているコンプライアンスであるが、法令だけではなく、社会的規範などの遵守も求められていることも当然のことである。一方で、エシックスとは、倫理である。何が正しいのか、ということを考え、それに基づき行動できる心を示す文言である。

大切なのは、ビジョンからつながることであり、企業の社会的責任を全うすることである。コンプライアンスを強化し、そのマニュアルを提示するだけでは実際に結果に結びつかない。コンプライアンス以上に重要となるのが、エシックスプログラムだからである。倫理ということをしっかり企業が取り組んでいかないと、社会的責任という概念に結びつきにくい。企業の市民に対する活動の実践アプローチとしてのボランティア活動への支援などが含まれる言いながら、製薬企業に市民公開講座の協力を求めても、労務提供を盾に非協力的な姿勢を固持する。「製薬企業として、社会に対する責任を果たし、云々」と経営哲学や経営理念を掲げている文を見るたびに、その言行不一致に残念な思いが募るばかりである。そのような中で公正競争規約の労務提供の拡大解釈の元、適正な社会貢献や社会責任さえも禁止するなどの考え方は改めるべきと考える。そこにはエシックス(倫理)を感じない。

欧米ではビジネスエシックスが先行し、法的整備(Sarbanes-Oxley Act)を行ってきた。その後、その法の順守(コンプライアンス)が企業の社会的責任(CSR: corporate social responsibility)の内実となった。CSRとは、事業活動を行なうだけでなく、人権やコンプライアンスの遵守、環境問題への配慮、地域社会との共存・貢献といった企業が果たすべき社会的責任である。企業の存在意義が問われるなかで必然的に生じてきた行為である。製薬企業の倫理観が一般社会の倫理観と同じになるためには、企業の利益は企業の生産活動の上に成り立っていて、その生産活動は企業のコンプライアンスの上に成り立っていて、その土台はエシックスの上に成り立っていると言うことを理解しなくてはならない。企業というものは倫理的な価値観に立脚した社会貢献・社会責任を考えなくてはならない。

我々の講演会は人を診るという医療におけるさまざまな事象を明らかにし、それを検討する会である。一見不都合と思える臨床上の出来事を、多様性の中でどのように的確に取り扱うことができるかを考える会であろう。そこには薬剤のみではない、人という臨床情報が重要となることを忘れてはならない。今回の講演会は、出席者に専門的情報を提供する学術的なものと考え、製薬企業の行う講演会のように演者に対する検閲に等しい介入はない。

学術的情報は、偏りなく公平に提供することや中傷・誹謗しないなどの事象は当然ながら厳守しなければならないが、区別は 当然ながら存在する医療情報である。効能・効果、用法・用量等の情報も的確に行われるべきである。しかしながらこの場は プロモーションではない。医療の本質を考慮した講演会である。演者自身も自らの責任において医療学の見地から講演すべき であり、聴衆においてもこの本質を理解し参加すべき志の高い講演会である。

病を治すための人類のあらゆる分野における知識や経験を集大成した臨床現場における隠し事のない医学ならびに医療のため の講演会を考えた。

神奈川県内科医学会と神奈川県保険医協会は、新たな時代の医療情報の医療者への提供を提唱したい。

詳細に関しては次のように考える。

関内新井ホールで原則開催日ならびに時間は、土曜日の15時~18時の範囲内で行う。開催予定日は、3/23・5/25・6/22・7/20・7/27・9/28・11/16を考えている。

3/23は呼吸器疾患を中心に講演会を作り上げたい。その後、肝疾患(NASH, NAFLD)・リウマチ膠原病領域については講演を考えたい。ただし、「糖尿病対策委員会」「肝・消化器疾患対策委員会」「認知症対策委員会」「高血圧・腎疾患対策委員会」「呼吸器疾患対策委員会」「心臓血管病対策委員会」「リウマチ・膠原病対策委員会」「禁煙推進委員会」「医薬品評価検討委員会」「在宅医療委員会」「健康長寿社会を目指す委員会」「メディカルコミュニケーション委員会」の中で、縦糸横糸の関連から複数の委員会による講演会を考えていきたい。

いずれの講師についても内科医学会の会員であり、講師謝礼金は不要。ただし交通費はお渡しする。原則スポンサーなしで開催し、本音の講演を企画する。会費として1000円を徴収すれば、100人参加すれば、10万円の収入となり、関内新井ホールで開催しても会場費12万5千円、演者支払を1万円としても収支は計算できる。

高血圧については武田、第一三共、高脂血症についてはアステラスが共催の可能性がある。ただし、企業のプロモーションコードの適応は認めない。事前スライド・チェックも認めない。高血圧学会の著名な医師も謝礼金は不要という学者もいる。高血圧、高脂血症だけでなく、今後すべての領域についての講演会も同様の扱いとする。その趣旨は企業の宣伝工作にかかわらない本来の自由な講演を企画するためである。ただ、薬剤の処方、医療行為に関して、保険診療の範囲を逸脱した用い方を話すときは、その責任所在を明確とする。

神奈川県内科医学会と神奈川県保険医協会で成立した新しい講演会組織名義の通帳を作り、さまざまな組織からの協賛金は振り込みを可能とする。この問題は両者の金銭関係にかかわる問題であるから、今後更なる整備が必要である。考え方としては両組織の本体に金銭的な影響を及ぼさない仕組みを作る。

講演会参加募集は神奈川県保険医協会のFAXを利用する。よって神奈川県保険医協会の研究部会・理事会の承認が必要となる。神奈川県保険医協会研究部での合同講演会の話をする場合、宮川政昭を招聘する。同様に内科医学会で同様の案件の場合、森壽生を招聘する。

来年1月を目途に神奈川県内科医学会と神奈川県保険医協会合同講演会の名称、開催目的、趣旨を発表し、メディファックス、日経メィデカル・メディカルトリビューン・m3・医事新報社等に連絡して合同発表する。また、本合同組織の開催・運営費用を捻出するため、医学医療情報媒体企業に各講演会の要旨の配信を許可する対価を求める。

事務局として、ゴールデンチャイルドを考える。(ほとんどの業務は神奈川県内科医学会と神奈川県保険医協会が事務局として行う)